

関根ゼミ合宿

しおい

2002年11月25~26日
@筑波山ホテル青木屋

目次

1. ゼミ合宿心得
2. ゼミ合宿メンバー
3. ゼミ合宿日程
4. 講師の方から
自己紹介&ひとこと
5. 宿泊、宴会上の注意事項
6. 持ち物
7. 関根先生からひとこと
8. メモ

1. ゼミ合宿心得

この箇所の記事は、教官未公認の内容であるため、WEB 公開版にかぎり削除しました。

2. ゼミ合宿メンバー



天野夏樹

井上幸子

辰巳研一

儘田由香

山岸由季

若山孝弘



開口文登

鈴木千尋

高橋優子

中本千絵

吉村千晴

細貝輝夫

早川 公

小笠原真紀子

3. ゼミ合宿日程

11月25日(月)	11月26日(火)
12:45 筑波大学第3学群棟前バス停集合	7:00 起床
1:00バス移動 青木屋	7:30 朝食
14:00 ワークショップ 「協力隊シミュレーション」	9:00 ふりかえり「～協力隊の体験をふまえて～」
17:00 自由時間 入浴	12:00バス移動 筑波大
18:00 夕食 20:00～2次会	(以下はオプションで) 13:00 昼食
	昼食後 ゼミ対抗ボレーリング大会 代表選考会予行練習

4. 講師の方から自己紹介＆ひとこと

講師：磯山信幸氏

平成11年度2次隊／婦人子供服／ケニア、の青年海外協力隊OBです。

昨年暮れの帰国後、国際協力推進員の業務に就かせていただいております。国際協力について考え、また、実践するうえでのお手伝いまで、国際協力市民参加の相談窓口が、国際協力推進員に期待された役割です。職務上、任期中の出来事の数々を生ウルルンで終わらせてしまうわけにもいかず、また、協力隊事業使用済みサンプルの一人として、任国で得たそれら経験を振り返る貴重な機会をもちたいと考えております。この度はお招き有難う御座いました。皆さんが用意したまな板の上で、私が観たものを紹介させていただこうと思っております。宜しくお願い致します。

5. 宿泊、宴会場の注意事項

【宿泊】

- ・布団の位置は公平にじゃんけんで
- ・布団の中で麦チョコは食べない
- ・寝タバコはダメ

【宴会】

- ・手酌をしない(目上の人には進んで酌を)
 - ・チャンポンを(なるべく)しない
- 例: ビール - 酎ハイ - 日本酒 - 酎ハイ など
- ・外で寝ない(凍死する恐れがあります)
 - ・ピンは割らない(危ない)
 - ・騒ぎすぎない(うるさい)

以上を踏まえながら、ゼミ合宿ということを念頭に置いた上で、実り多いゼミ合宿にしましょう

6. 持ち物

- ・ 筆記用具
- ・ 宿泊に必要なもの
(洗面用具、着替え等)
- ・ お金 ￥8,500
- ・ 協力隊シミュレーション調査票
- ・ しおり
- ・ 飲みたいお酒

7. 関根先生からひとこと

いよいよ、関根ゼミ発足以来はじめての合宿がはじまります。卒論や独論の準備で忙しいこの時期に、3、4年生合わせて14名の参加者が得られたことは、この上ない喜びです。できれば4年生の参加がもう少しあればという希望もないわけではありませんが、時期的に難しいことは理解していますので、これで由としましょう。

ゼミ合宿には、「観光旅行型」「教室延長型」「特別企画型」「折衷型」などさまざまな形態が考えられますが、今回は特別企画型にしました。これは、「合宿にいった時ぐらい通常とは違うことをしたい」(しかし、「遊び」の合宿ではゼミ単位でやる意味がない)という私の独断的考えによるものです。幸いにも、国際協力事業団筑波国際センター(TBIC)の企画するサーモンキャンペーンのご協力を得て、協力隊OBで国際協力推進員をされている磯山信幸さんの講演とそれに基づく討論会、「協力隊シミュレーション」なる「参加型」の企画までメニューに用意することができました。

文化人類学/「開発と文化」論ゼミという名称が示すとおり、このゼミは基本的には人類学的な視点から特定の社会現象にアプローチしてゆくことに特徴があります。したがって、必ずしも開発や援助に関心をもつ人ばかりが所属しているわけではありません。今回の企画は開発援助に偏ってしまいましたが、これは根本的にはミクロなレベルにおける現象をグローバルな文脈と結びつけて捉えてゆく作業であり、その点において他のトピックに関心を寄せる人たちにとっても無縁ではないはずです。

今回の合宿は今後の「持続可能な合宿」を構築するためのいわば実験的試みです。1泊2日の旅で、しかも場所は筑波山温泉という近場ではありますが、ゼミ生相互の連帯を強化し、今後のゼミ活動の活性化を図るという意味から、参加者全員で発展性のある有意義なものにつくりあげてゆきましょう。

最後に、合宿への参加を快諾してくださった磯山さん、ゼミ合宿担当としてTBICの方々との交渉や開催場所の選定、「しおり」の編集に尽力してくれた小笠原さんに感謝します。

蛇足ながら、できれば次回からは、バスの中で使用する「歌のしおり」も用意してください。

8. メモ

